【平成27年度　特別研究】

公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE 青森県立保健大学

（1）研究課題名　Development and evaluation of an educational program advocating the use of child safety seats in vehicles

小笠原メリッサ、千葉敦子

背景

●日本では、乳幼児の死因の上位に不慮の事故があり、このうち最も多いのは交通事故による死亡である。6歳未満の乳幼児に対しチャイルドシート（以下CRS：Child restraint system）着用が義務化されたが、CRS着用率は62.5%であり、特に5歳児では38.1%と低い。

＊2015年の警察庁・日本自動車連盟による調査

●CRSは自動車同乗中の乳幼児の安全を守るうえで極めて重要な予防対策であり、公衆衛生上の観点からも疾病予防に並ぶ外傷予防対策として、装着推進に向けた取り組みが求められている。

目的

CRS着用率の増加および適正使用の推進をめざし、公開講座においてCRSに関する正しい知識の普及をテーマとした健康教育を行い、その教育効果を検討するために講座前後での知識の変化および受講後の認識を明らかする。

研究内容 方　法

1．研究対象：2015年度に大学主催で行われた公開講座の参加者218人

2．データ収集方法

無記名自記式質問紙法。質問内容：個人属性、CRSに関する知識、講座後の利用行動の変化、CRS着用率推進の効果的な方法について。配布と回収：公開講座開始前にアンケート用紙を配布し講座前の回答を求めた。用紙はそのまま保持してもらい、講座終了後にも回答を求め、回収箱で回収した。

3．分析方法

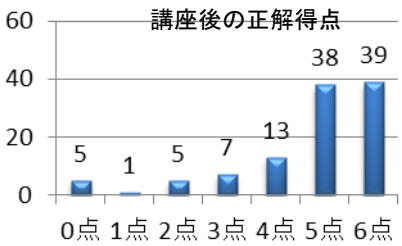
設問ごとに単純集計を行った。CRSに関する知識については正解が1点で全問正解を6点とし、講座前後における正解得点の差を、対応のあるt検定で分析した。自由記述については内容の類似性によりカテゴリー化した。

4．倫理的配慮：　本研究は、青森県立保健大学倫理委員会の承認を受けて実施した。

研究成果

■CRSの知識に関する正解得点は、講義前が2.5±1.16点、講義後が4.7±1.55点であり、講義後に有意に高くなっていた（p＜0.01）。特に、全問正解者は、講義前が1人だったのに対し、講義後は39人に増加していた。

■講座受講後の認識について、CRSの利用行動を変化させたいとした人が76人（86.4%）であり、自由記載では、「CRSの必要性を周囲の人に教えたい」、「子どもができたらCRSを必ず装着したい」、「ミスユースを点検したい」等の意見が大半であった。



●CRSの知識に関する正解得点が講義後に有意に上昇していたことから、今回の公開講座は正しい知識の普及につながり、一定の教育効果があったと言える。

●今後は、子育て世代および祖父母世代に対象を絞り、CRSに関する正しい知識の普及および着用率の増加を目指した健康教育を行っていく必要がある。